



地域とともに、 安心して子どもを育てられるまちへ

少子高齢化や核家族化が進展し、地域のつながりが希薄になる中、各務原市では地域での支えあい・助け合いのコミュニティ活動を支援しています。

特に、将来を担う子どもたちを安心して産み育てられるよう、子育て支援の充実に力を入れています。

関連するSDGsのゴール



(注) 新型コロナウイルス感染症の影響などにより、中止となった事業もあります

親子が笑顔で交流「子ども館」

子育て中の親子が集まり、子どもたちが一緒に遊んだり、親同士が交流したりすることができる施設が「子ども館」です。

市内には5つの子ども館があり、定期的に季節の行事や子育て講座などを開催しています。館内には絵本やおもちゃなどがあり、子どもたちが楽しく遊ぶことができるほか、お母さん、お父さんが子育ての悩みを相談したり、子育て情報を交換したりできる交流の場となっています。

また、赤ちゃんと保護者が集い、ふれあい遊びやおしゃべりなどを楽しむ「あかちゃんあつまれ」を毎月開催しています。同じ年齢の子を持つ親同士の交流の場を設けることで、互いに育児を理解し合いながら楽しい子育てにつなげる、親子の自主的な活動「子育てサークル」の立ち上げと運営を支援しています。

「ばあば・じいじ」が子育てを応援

子ども館では、乳幼児親子が地域の子育てボランティア「ばあば・じいじ」とともに体操やふれあい遊びなどで楽しい時間を過ごしています。

子ども館で、乳幼児親子と地域の「ばあば・じいじ」が顔見知りになり、温かいふれあいが生まれることで、地域の中で安心して子育てできる環境が作られていくことが期待されています。



「行政と地域」で子育てをサポート

「こんにちは赤ちゃん訪問」は、生後4カ月までの赤ちゃんがいる世帯に、「訪問スタッフ」が自宅を訪ね、「おめでとう」の気持ちとともに、さまざまな子育てに役立つ情報をお届けする事業です。訪問スタッフは、ボランティアの育児経験のある先輩ママや保健師、助産師などです。

また、地域で子育てを支える取組の1つが「親子サロン」です。市では、ボランティアが地域の公民館やコミュニティセンターなどで開設する「親子サロン」に対して支援を行っています。

親子サロンでは、幼稚園や保育所などへ入る前の子育て中の親子と、子育て経験のあるベテランのママさんたちが、一緒に遊んだりおしゃべりをして、楽しいひとときを過ごしています。

親同士の交流や地域とのつながりが生まれるとともに、「育児中にほっとできる」時間を共有することで、育児の負担感軽減などに役立っています。



絵本に、お祝いの気持ちを込めて

出生後、最初に受診する「4か月児健診」の際に、子育て情報とともに絵本を手渡しています。

この「ふれあい絵本デビュー事業」は、絵本を通じて親子のふれあいが深まるようにと行われている事業で、ボランティアによる読み聞かせも行われます。赤ちゃんと一緒に絵本を楽しむ時間を増やすことで、親子の絆を深めてもらいたいという願いが込められています。



童心社

子育てに切れ目ない支援を

気軽に子育ての相談ができるよう、市では、相談体制を充実させています。子ども家庭支援課内の家庭児童相談室、5カ所の子ども館のほか、すくすくホットライン（保育所）での電話相談、教育センター「すてっぷ」など、さまざまな相談窓口があります。

また、母子健康包括支援センター「クローバー」では、妊娠・出産・子育ての総合相談窓口を設けています。関係機関が連携し、地域全体で妊娠期から子育て期まで、切れ目のない支援を行っています。

